

令和 6 年度 試験問題(抜粋)

次の問題について、適切な答えを 1 つ選びなさい。

【問題 1】咽頭について正しいのはどれか。

1. 咽頭の筋は、すべて平滑筋でなる。
2. 後鼻孔より後方の空間を上咽頭と呼び、軟口蓋が含まれる。
3. 口峽より後ろの空間を中咽頭と呼び、舌根は含まれない。
4. 舌根と喉頭蓋の間の陥凹部を喉頭蓋谷と呼ぶ。

【問題 2】肺と気管について正しいのはどれか。

1. 酸素飽和度は、肺動脈の血液よりも肺静脈の血液の方が高い。
2. 気管支動脈は、肺循環系に属する。
3. 気管軟骨は、気管の背面に存在する。
4. 左肺は上葉、中葉および下葉に分かれている。

【問題 3】摂食嚥下の 5 期モデルにおける準備期について誤っているのはどれか。

1. 咀嚼時の顎は、涙滴状の運動軌跡を描く。
2. 捕食した固形物は、舌運動によって臼歯部まで運ばれる。
3. 咀嚼運動は、咀嚼筋と口蓋舌筋で行われる。
4. 咀嚼時のにおいては咽頭から鼻腔に送られ、嗅神経により脳へ伝達される。

【問題 4】摂食嚥下の 5 期モデルにおける食道期について正しいのはどれか。

1. 食塊が食道の分節運動によって胃まで運ばれるまでの時期である。
2. 安静時から、食道は食塊が通るスペースが確保されている。
3. 上食道括約筋は、嚥下時に弛緩する。
4. 食塊が食道を通過する時間は 30 秒前後である。

【問題 5】脳神経について誤っているのはどれか。

1. 脳神経は左右 12 対からなる末梢神経で、全て脳幹から出ている。
2. 第Ⅰ・第Ⅱ・第Ⅷ神経は知覚神経である。
3. 第Ⅸ～第Ⅻ神経の神経核は延髄にある。
4. 第Ⅻ神経は運動神経である。

【問題 6】神経学的診察について正しいのはどれか。

1. 運動失調の診察として、鼻指鼻試験を実施した。
2. 痙縮の診察として、Romberg 試験を実施した。
3. 三叉神経の診察として、カーテン徴候を確認した。
4. 上肢感覚障害の診察として、Barré 徴候を確認した。

【問題 7】偽性球麻痺について正しいのはどれか。

1. 運動障害であり、感覚障害はない。
2. 多発性脳梗塞では頸部・体幹の筋が弛緩しやすい。
3. Silent aspiration が起こりやすい。
4. 嚥下中枢が障害される。

【問題 8】 症状と脳血流支配領域の組み合わせで正しいのはどれか。

- | | | |
|--------------|---|-----------|
| 1. 球麻痺 | ー | 後下小脳動脈 |
| 2. 脱抑制 | ー | レンズ核線条体動脈 |
| 3. 上肢の運動障害 | ー | 傍正中視床動脈 |
| 4. ゲルストマン症候群 | ー | 前頭眼窩動脈 |

【問題 9】 加齢による特徴で正しいのはどれか。

1. 嚥下反射の閾値が上昇する。
2. 口腔内残渣物が減少する。
3. 唾液の粘稠度が低下する。
4. 食道入口部開大量が増加する。

【問題 10】 オーラルフレイルについて正しいのはどれか。

1. 4つのフェーズから構成される身体的な脆弱に着目した概念である。
2. 第4レベルは、ポピュレーションアプローチの対象である。
3. オーラルフレイルと口腔機能低下症はオーバーラップする。
4. 低栄養、サルコペニアは、第2レベルから起こる。

【問題 11】 パーキンソン病患者の摂食嚥下障害の特徴について正しいのはどれか。

1. Hoehn&Yahr の重症度分類Ⅱでは、姿勢反射障害により食事姿勢が保てない。
2. 食事時の Wearing-off 現象が強い時は、パーキンソン病治療薬を食後に内服する。
3. ジスキネジアの出現により口唇閉鎖不全が起こる。
4. 食事動作開始に伴い振戦が出現しやすい。

【問題 12】 小児の摂食嚥下機能の発達順序として正しいのはどれか。

1. 捕食機能獲得期→嚥下機能獲得期→すりつぶし機能獲得期→押しつぶし機能獲得期
2. 嚥下機能獲得期→捕食機能獲得期→押しつぶし機能獲得期→すりつぶし機能獲得期
3. 押しつぶし機能獲得期→嚥下機能獲得期→すりつぶし機能獲得期→捕食機能獲得期
4. 捕食機能獲得期→すりつぶし機能獲得期→押しつぶし機能獲得期→嚥下機能獲得期

【問題 13】 頭頸部がんの放射線療法について正しいのはどれか。

1. 照射部位の粘膜の白苔は歯ブラシで取り除く。
2. 咽頭への照射は、喉頭感覚の低下を招く。
3. 放射線治療晩期に、粘膜炎や疼痛が増悪する
4. 放射線治療急性期に、嚥下関連筋群線維化が生じる。

【問題 14】 摂食嚥下に関する検査の説明で正しいのはどれか。

1. 超音波診断装置は小児の舌根部の動きが評価できる。
2. 嚥下造影検査は食道の食塊逆流は評価できない。
3. 嚥下内視鏡検査は嚥下反射の瞬間が評価できる。
4. 咳テストは、顕性誤嚥を評価できる。

【問題 15】 必要水分量について正しいのはどれか。

1. 体重あたりの必要水分量は、成人に比べると乳児や小児は少ない。
2. 体重測定は、脱水の評価に有益ではない。
3. ナトリウム欠乏状態は、低張性脱水である。
4. 成人の代謝水は、100ml/日程度である。